

1. 基本的考え方

(1) 施策（まちづくり）達成状況報告の意義

本市は、将来の都市像を「**人が輝く共生のまち**」として、10年間のまちづくりの方向性を明確にした第5次江別市総合計画を平成16年4月に策定し、まちづくりを進めてきました。この「基本構想」と前期5年間の「基本計画」の達成状況を踏まえ、平成21年より後期5年間の方向性や目標などを再構築した「後期基本計画」に基づく、まちづくりを推進しています。

江別市総合計画は、まちづくりの目指すべき姿を示す「まちづくりの設計図」であり、その設計図に基づき、税金を活用して事業を行うものです。

その「まちづくりの設計図」どおりに順調に進んでいるか、遅れ気味の分野はないか、分野別の資源（税金）の使われ方や事務事業の状況について、納税者である市民へ分かりやすく伝えることは、行政の説明責任として重大な役割と考えます。

「設計図（第5次総合計画）どおりにまちづくりが進んでいるのか」
「限られた財源（歳入）が有効に使われているのか、成果が出ているのか」
「自治体を取り巻く環境変化に対応し、設計図のどこを見直す必要があるのか」

総合計画の進捗状況を評価し、「まちづくりの設計図」の見直しの必要性や事務事業の新規展開、またスクラップ・アンド・ビルドを行うための資料や行政の意思決定の判断材料として活用するほか、後期計画の評価からは、市民視点での検証、分析する外部評価を実施し、客観性、信頼性をもったものとします。

また、引き続き、計画（Plan）の策定、実施・進捗管理（Do）、評価に基づく改革（See）というPDSサイクルを推進します。

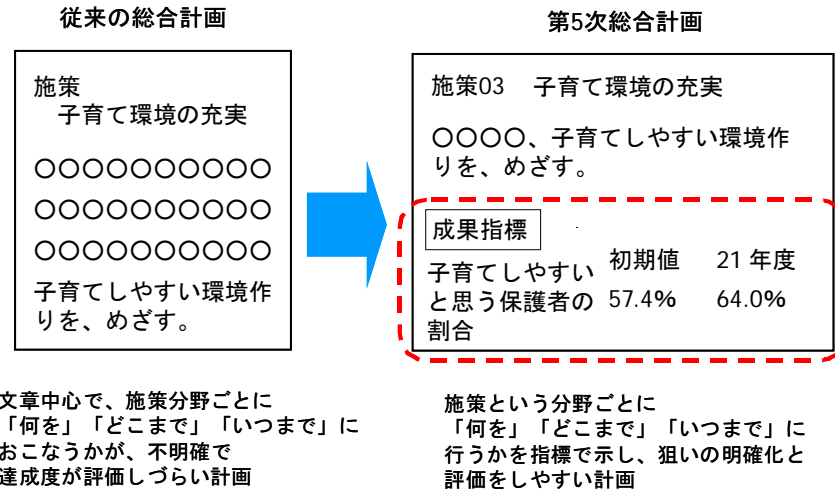
(2) まちづくりの目指すべき姿を、成果指標（モノサシ）で示す総合計画

第5次江別市総合計画では、まちづくりの設計図として、「何を」「どこまで」「いつまで」の要素を後期基本計画では、31本の施策と100の基本事業に目標の明確化と目的の達成状況を報告できる234の「成果指標」を設定しています。

本報告書では、その234の指標値の推移から施策（まちづくり）達成状況を報告するものです。

成果指標とは

施策の目的が計画どおりに達成できているかを表す指標です。



文章中心で、施策分野ごとに「何を」「どこまで」「いつまで」におこなうかが、不明確で達成度が評価しづらい計画

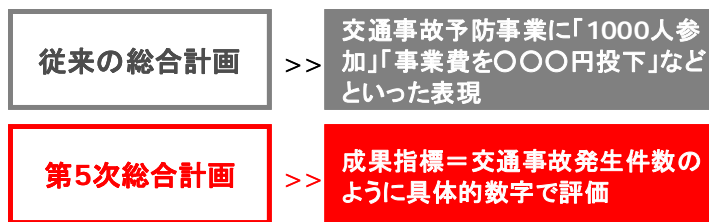
施策という分野ごとに「何を」「どこまで」「いつまで」に行うかを指標で示し、狙いの明確化と評価しやすい計画

【いままで】

従来の行政の指標は、
「どの事業にいくらお金をかけたか」
「どんなモノをつくったか」
という行政側の「活動内容・事業内容」で報告をしていました。

【これから】

行政の役割は、
まちづくり（総合計画）を実現することであり、『施策目的の達成状況＝成果』を分かりやすく示すことを目的とした指標によってお知らせします。



(3) 総合計画進行管理方法

江別市行政評価システムの活用

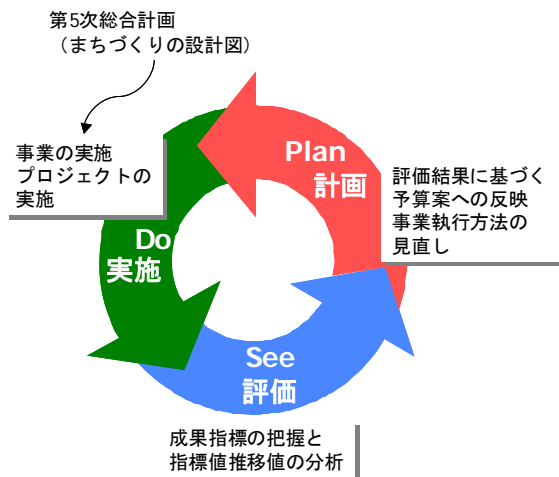
総合計画の目指すまちづくりを施策体系でとらえ、「市民起点」「成果重視」の視点に立って、「Plan（企画）→ Do（実施）→ See（評価）」というサイクルの中で進行管理等をおこなう「行政評価システム」というマネジメントの仕組みを適用し、江別市行政評価システムとして運用しています。

江別市行政評価システムの構成は、江別市第5次総合計画の体系に基づき、具体的に定量的な評価が行えるまちづくりの達成度をはかる成果指標が設定されている施策・基本事業以下で実施します。

施策・基本事業レベルにおいては、施策達成報告書を活用し、毎年5～7月に昨年度の成果指標の現状値と過去との指標値推移を把握した後、その原因を分析・評価し、次年度の方向性を検討する「施策・基本事業評価」を行います。

施策・基本事業施策の成果に影響を及ぼす手段である事務事業については、事務事業評価表で昨年度の事業コストや活動指標、成果指標による評価を行い、施策・基本事業の目的達成やコストダウン等に向けた次年度の方向性を検討する資料として活用します。その検討結果は施策・基本事業評価の次年度方向性に反映されます。

施策(まちづくり)達成状況報告に当たっては施策単位ごとに評価結果をまとめて報告します。



【施策・基本事業評価】

単位施策の目的達成度を成果指標で把握し、その原因分析・評価し、今後の方向性を検討します。

⇒施策達成度報告書

【事務事業評価】

事務事業の活動内容や成果状況を担当者の視点で把握し、事業成果や「施策・基本事業」への貢献度から事業の改善案を検討します。

⇒事務事業評価表